様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	光井 康博
Serum Soluble OX40 as a Diagnostic and Prognostic Biomarker for Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome/Drug Reaction with Eosinophilia and Systemic Symptoms. （和訳） 血清可溶性OX40値は薬剤性過敏症症候群（DIHS）の診断および予後予測の指標となりうる。			

（背景）
薬剤性過敏症症候群（DIHS）は、抗けいれん薬などの限られた薬剤により引き起こされる重症薬疹である。発熱・皮疹の出現から 2～4 週間後にヒトヘルペスウイルス 6 型（HHV-6）の再活性化を伴うことが特徴である。OX40（CD134）は、アレルギー性炎症に重要な役割を果たしているのと同時に HHV-6 の侵入のための細胞受容体として機能している。薬剤性過敏症症候群において、CD4+T 細胞上の OX40 発現が亢進していることが報告されている。

（方法）
薬剤性過敏症症候群（n＝39），播種状紅斑丘疹／多形紅斑（n＝17），Stevens-Johnson 症候群／中毒性表皮壊死症（n＝13），自己免疫性水疱症（n＝5）の患者および健常コントロール（n＝5）の血清中の可溶性 OX40 値を，ELISA 法で調べた．また、末梢血単核細胞における HHV-6、HHV-7、CMV のコピー数をリアルタイム PCR で測定した。

（結果）
急性期の薬剤性過敏症症候群患者の血清可溶性 OX40 値は、CD4+T 細胞の OX40 発現と並行して上昇していた。また、血清可溶性 OX40 値は、疾患の重症度および thymus and activation-regulated chemokine（TARC）、インターロイキン 5、インターロイキン 10 の血清レベルと有意に正の相関を示した。HHV-6 陽性の患者は、HHV-6 陰性の患者よりも血清可溶性 OX40 値が高く、血清可溶性 OX40 値は HHV-6 の DNA 量と相関していた。

（結論）
血清可溶性 OX40 値は、薬剤性過敏症症候群の早期診断の指標として有用であり、重症度を反映する。血清可溶性 OX40 値の上昇は、薬剤性過敏症症候群患者の HHV-6 再活性化を予測する。